

# 格安！冬のバス旅 2020



2020年2月

旅のチカラ研究所 植木圭二

首都圏発着の格安の2つのバス旅に行ってきた。以前にも行った那須塩原のホテルニュー塩原に泊まる1泊2日の旅と、昨年秋の台風被害への復興支援策のふっこう割が付いた長野2泊3日のバスツアーを紹介する。

## 第一章 1泊2日のバス旅

### ■都内で一杯の代わりに

私は海外旅行で知り合った人たちと旅行を終えた後もできる限り連絡を取るようになっている。一昨年に旧ユーゴスラビアの旅で一緒になった鶴田さんもその一人で、年も明けたので新年会を兼ねて都内で一杯やりましょうという話になった。

しかしながら相手が旅行友達なので都内で一杯というよりも温泉で一杯ということ进行き、鶴田さんに以下のように提案した。

「那須塩原のホテルニュー塩原は7300円で泊まれて、食事も温泉も満足できるレベルです。さらに大衆演劇もあるのでたまにはいいですよ。池袋から往復の送迎バスが1500円を出ており、全部合わせても9000円位なので都内で一杯の代わりにいかがでしょうか？」というもので以前訪れた時の旅行記「塩原温泉の旅2019」を添付して送った。

鶴田さんからすぐにOKが来て、夫婦2組の格安バス旅行が決定したのが10日前である。

宿に向かうバスの中では旧ユーゴスラビア、中でも一番気に入ったクロアチアの話やモスクワ空港で一緒に飲んだビールの話も出てきて話題が尽きない。外の景色を見なければヨーロッパを旅行しているような気分になる。

さらに話は鶴田さんが最近行ったフランスやチュニジアの話、私もクルーズ船やブルガリアの話などに移り、家族や孫のこと昔の仕事の話にまで及ぶ。

## ■ホテルニュー塩原

宿に着いてから軽い昼食をとりながら、私が大江戸温泉物語というホテルグループには40くらいの宿があってその特徴は・・・、この宿は・・・、本日これからの予定は・・・など、1回来ただけなのに先輩面をして説明する。

鶴田さんの奥さんは、大江戸温泉物語はお台場の温泉テーマパークだけだと思っていたと言うからまだまだ宣伝が足りないようだ。

そして私たち4人はこの宿に常設されている劇場「鳳凰座」に大衆演劇を見に行く。この宿では月毎に公演する劇団が替わり、今回の劇団は笑いの取り方が絶妙である。涙を誘うシーンはあまりないが爽快な殺陣シーンが小気味よい、何も考えずに見入ることができるのは温泉場での芝居には良いのかもしれない。

このホテルには大浴場が3ヶ所あり、どれもサウナが併設されている立派なものになっている。その理由は元々ホテルニュー塩原という大きな宿があり、さらに2つのホテルを買収したからでそのために超巨大な温泉ホテルが誕生した。

塩原温泉は箒川（ほうきがわ）の溪谷の両側に温泉宿が集まって温泉街を作っており、その川の対岸の「湯仙峡」の風呂が素晴らしい。湯仙峡というホテルを買収して橋を架けたから、対岸といっても建物間の廊下で繋がっているので行き来に苦はない。

その湯仙峡の風呂が私の一押しだと鶴田さん夫妻に伝えて、夕食まで各自勝手気ままに過ごす。

部屋に入る。部屋は定員5人の広い和洋室を2人で使うから相当にゆったりできる。

やや古いこと以外は設備的には何ら不足はなく、他では見かけないものとしてウォーターサーバーが各部屋に常設されているので美味しい水も熱いお湯もこれ1台で飲むことができる。

大浴場で話をした常連客からは、この宿は昔とても高くて庶民が頻繁に来ることはできなかったと聞く。



この宿の詳細は旅行記「塩原温泉の旅 2019」に記載している。

## ■飲み放題が、何と無料に！

私はちょっとした用事があったのでフロントに行き、受付にいる若い男性従業員と話をする機会を得た。

私が彼に大江戸温泉物語の宿の中でどこがお勧めか尋ねると、ここに就職したばかりで他の宿はまだよく知らないという。話を聞くと彼は東京で料理人として修行していたが、料理の幅を広げるために接客の勉強にこのホテルに就職したという異色の経歴を話してくれる。

その彼に「秋にも来たけれど、それよりも安くなっていて凄いな」と言うと、彼は「こんな山奥の田舎で真冬だから相当安くしないお客さんが来ないですよ」とややぶっきらぼうに答える。異色の経歴からか、集客や経営について自分の意見がありそうだ。そして「だから今はアルコール飲み放題も無料サービスですよ」と付け加えた。

私はそれを聞いて「本当！飲み放題無料なの？」と念を押すと、彼は「3月19日までやっています」と答える。

これは都内で一杯やるよりも良かったと喜びながら、私は少し唾然としてしまう。

大江戸温泉物語と同様なホテルグループは「おおるり」や「伊東園」などあるが、消費税率アップに伴いさりげなく値上げしている。その2つに比べてやや高級路線を狙う大江戸温泉物語ではむしろ値下げしているとは驚きである。

ピンチはチャンスということか、あるいはお客が来てくれない限り何も始まらないということかもしれない。

とにかく鶴田さんと私にとってはありがたい話だ。

夕食会場と一緒に行く途中でそのことを彼に伝えると「この値段で本当ですか？凄いですね！」と返ってくる。さらに「温泉もとても豪華で良かったですよ」と付け加えてくれた。

奥さんも「凄く良い温泉ね、温まった手が冷めないの具合がいいですよ」と手の甲をさすりながら喜んでいる。

この夫婦も段々この宿のファンになっているようだ。



写真は湯仙峡の女湯で私は見たことも入ったこともないが、宿のHPより引用する。

夕食は酒飲みの男組は飲み放題に酔いしれ、女組は70種類くらいある食べ放題の料理やスイーツを少しずつ取ってきてはおしゃべりに花を咲かせている。

前回来た時よりも来客数は少ないようだ。前は2部入れ替え制の夕食になっていたのに本日は入れ替え無しの1部制になっている。そのために夕食時間は3時間くらいあり、その間は飲み放題も続くから男組はすっかり酔っぱらってしまった。

それでもあとは寝るだけ、やはり都内で一杯やるより良かった。

この格安バス旅行は、時季を選べば“飲み会”目的で使える。

帰りのバスで後ろの席に座った大学生の5人組が、「飲み会をやりてまた来るしかないな」と言っていた。そういえば5人なら一人5000円台で泊まれるプランがあった。

## ■先進の蓮田 SA

東北自動車道の蓮田 SA (サービスエリア) に立ち寄る。ここは昨年リニューアルされ話題になった SA なので一度覗いて見ようと思っていたところだ。都心に入る直前の SA なので大きな特徴が2つある。そのために従来の蓮田 SA よりも蓮田駅に近い方に2.5km 移転させて、さらに広い土地を用意した。駐車スペースは従来の3倍になったという。

まず都心に帰るドライブ客が家に着いて何をするかという視点から考えられている。家族で出かけた場合には家の近くのスーパーマーケットやコンビニで食材や弁当を買うか、あるいはレストランに入ることもなる。そういったお客のニーズに応えるべく、生鮮食料品、総菜や弁当に特化したスーパーマーケットが施設内にある。

品物は安い。野菜の多くは地元産のもので安いのは当たり前だが、地元以外の肉、魚も安く新鮮である。その理由は高速道路上の施設だから流通のコストや時間が節約できる。

食料品以外に食事処も充実しており、ラーメン、丼ぶり物、牛タン、ベーカリーなどの専門店やスターバックスやコンビニなど20店舗以上が出店している。

それらの施設は高速道路利用者のみではなく、近隣住民が使えるように90台分の外部駐車場まで作ったので地元ではイオンが開店したように宣伝されていた。

妻たちは家庭の主婦目線で安く新鮮で品揃いの豊富さに驚いている。私と鶴田さんは酒のつまみにもなる総菜や弁当の方に足が向いてこちらも驚いている。夕方なので半額に値下げしたものもある。

そしてもう一つの特徴は防災である。

災害時に都心と郊外とを結ぶ高速道路の役割はとても重要であることはいままでのない。従来の3倍になった駐車場とトイレ、防災倉庫、ヘリポート、自家発電設備、井戸水設備がある。フードコートは電源、Wi-Fiを整備し、災害時には関係機関の活動拠点として使用できる。給油所は燃料タンク容量を増強しており、携帯電話会社の移動基地局も設置される。

そして高速道路上として閉じた空間ではなく、一般道路からも出入りできるように開口部があるので地域の住民の防災施設としても使用できる。

改めて人間の知恵というのは素晴らしいと感じる。

## ■帰りのバスで

帰りのバスの中、鶴田さんと話す。

今回の旅行でとにかく驚いていたことは安いことで、必要最小限の無駄のないサービスなどそのための工夫もあったという。大衆演劇も鶴田さん好みで感動したという。そして泊まったホテルが良かった反面、塩原の温泉街の荒れ様には心が痛んだという。

私が以前の旅行記で書いたこととほぼ同じことを鶴田さんも感じており、私の感性だけが特出していないことに安心する。

そしていかにも海外旅行好きの鶴田さんらしい目線での感想を聞く。

ホテル設備のメンテナンスの良さに感心したとのことで、安いツアーなのでホテルの設備維持が悪いと危惧していたというのがそれなりのレベルで維持されていたので驚いたという。確かに私も海外旅行ではいろいろな所が壊れたままになっている多くのホテルを経験している。

鶴田さんは、さすがに日本だと思ったという。

とにかく4人とも大満足の旅であった。それは価格に依ることも大きいですが、どんなに安くても内容が伴わなければ人は感動や満足をしない。都内で一杯よりも確実に充実していた2日間であった。

## 第二章 2泊3日のバス旅

### ■ふっこう割の旅が始まる

塩原から帰って間もなく、私と妻は阪急交通社の主催するバスツアーで長野に向かうバスに乗っている。旅行会社の国内ツアーへの参加というのは私にとっては珍しいことだが、それには訳がある。

このツアーの正式名称は「ふっこう割 がんばろう長野！露天風呂付当社基準Aランクホテルに連泊ゆったり信州3日間」というもので、昨年秋の台風被害に対して復興目的で政府が1泊あたり5000円を補助してくれる。2泊なので1万円も安くなり、結果15900円のツアーになっているのでこれはもう行くしかないと本日参加している。

添乗員は若い男性で挨拶の後に「今日の行程を言います、何もありません、ホテルに行くだけです」とあっけらかんと言う。少しおっとりした彼はなかなか面白そうなキャラクターをしている。

ツアー参加者の総勢は46人で、ほとんどは中高年の夫婦だ。

天気は気持ち良く晴れており山並みがよく見える。

途中で2回の休憩があり、添乗員の配慮だろうか昼食はゆっくり食べて下さいと2回目の休憩は1時間もとってくれた。これはのんびりした旅になりそうな予感がする。

## ■A ランクホテルとは

阪急交通社基準の A ランクホテル「ロイヤルホテル長野」に到着する。

ホテルは長野市の郊外的高速道路 IC を降りて直ぐの場所に位置し、13 階建ての立派なホテルで部屋数は 300 以上あるだろう。ホテルの前には広い駐車場が広がり、テニスコート、結婚式用チャペルもある。ダイワハウスグループのホテルで各種イベントに対応する都市型ホテルだ。

おっとりキャラの添乗員が「ここは業界でも有名で、出迎えも見送りもありません」言う。

観光ホテルではなくシティホテルだと主張しているのかと思うとドアマンも車の誘導係もいないから、徹底した効率追求型のホテルなのだろう。

10 階にある私たちの部屋に入ると窓から景色は高速道路が手前にあって多くの車が行き交っている様子がまず目に入る。高速道路の向こうに千曲川、そして長野市街地があり、さらに向こうには山々が連なる。妙高、黒姫、飯綱、白馬、鹿島槍ヶ岳、北アルプスが白い山肌を見せてくれる。これぞ長野という景色が私たちを迎えてくれる。



部屋はゆったりしていてとても広い。セミダブルサイズのベッドが 2 つ、加えて少し上質なソファと椅子があり 4 人まではゆっくりくつろげる。築年数も浅いので比較的新しく綺麗だ。さすが A ランクだけのことはある。

ちなみに阪急交通社のホテルランクには A の上には S もある。

## ■ホテルでのんびり過ごす

隣の大きなスーパーマーケットに買い物に行く。私たちは海外旅行に行くときホテル近くのスーパーマーケットに土産や酒を買いに行くのが常なので、まるで海外旅行に来ているような気分になる。私は 3 日分のビールを買い込み部屋に戻る。

ビールの買い出しを済ませれば、次は温泉だ。

風呂は露天風呂のみ温泉で、大きな内湯は温泉ではない。両方とも温泉にしないのは湧出量の関係からだろう。サウナも付いており設備としては充分である。

特出したことだけを書くと、脱衣場から浴室に入って直ぐのところにシャンプーバーというコーナーがあり各種シャンプーが 16 本も置いてありご自由にお使い下さいと書いてある。ドリンクバーやサラダバーはよく見かけるが、シャンプーバーは初体験だ。恐らく女風呂も同様なので女性には受けそうだ。

タオルは部屋にもあるが風呂場に備え付けのタオルが積まれており、いちいち部屋から持参する必要がない。ゴルフ場の風呂では当たり前の光景だが、このようなホテルでは珍しい。

昔はタオルの持ち帰りが前提で、宣伝も兼ねて宿の名入りのタオルを置いていた。最近は経費削減のためか名入りのタオルを廃止して洗濯業者から無地のタオルをレンタルにしている宿が多いので、そのために持ち帰りをやめて欲しい旨を掲示する宿もある。しかし昔からの習慣で持ち帰りは後を絶たない。

この宿のように風呂場でタオルを貸し出し回収すれば持ち帰ることはまずないだろう。さすが効率追求型だ。伊達に出迎えも見送りもしないのではない。おっと、関係ないか。

ホテルニュー塩原で観たような大衆演劇もやっている。関西の一座で、笑いあり涙ありの舞台だと案内に書いてある。観に行くつもりだったが宿泊客は無料ではなく 500 円とるとのことと夜の部は歌謡ショーのみなので行くのをやめた。

「観劇＋2食付き宿泊で1万円」というポスターが貼ってあり、おおよその相場が判明する。

夕食のためにロビーに降りていくと中国人客らしい一団がホテルに着いたところに遭遇する。どこから来たのか聞くと台湾の高雄だという。新型コロナウイルス騒ぎをニュースで毎日伝えているので、中国本土でないことに少し安心する。知らない人は中国語をしゃべっているだけで眉をひそめている人もいる。

台湾や香港からの旅行者は意外に多い。中国本土と区別して来日外国人旅行者数の 2018 年度のランキングでは、中国本土、韓国、台湾、香港、米国、タイの順番になっている。日韓関係が最悪の状態な韓国と今年に入って新型コロナウイルス騒ぎの中国に比べて、親日の台湾の存在は大きい。

私たちはツアーで指定されたビュッフェレストランに行く。ホテルのサイズに比べて夕食会場はさして広くない。それはこのレストラン以外にフレンチや中華のレストラン、そしていくつかの宴会場もあるからだろう。私たちの明日の夕食もホテルの外で食べるように予定が組まれている。やはり都市型のホテルは B&B (Bed&Breakfast)、つまり 1泊朝食付きが基本だ。

料理は山の幸を中心に豊富にそろっており、信州ソバや山賊焼きなど地元の名物も多い。さすがに A ランクだけのことはある。

夜 11 時、大型バスが来てお客を降ろしている。この時間でも到着があるのはこのホテルが高速道路の IC から近いこともあり、やはり都市型ホテルならではの光景になる。もちろん出迎えはない。

朝食は別のビュッフェレストランで、こちらの会場はとても広い。B&B が基本なので時間の差はあるものの宿泊客全員が来ることも想定しているのだろう。しかしながら今はガラガラで席の 1/4 も埋まっていない。

いつもこんなに空いているのかと季節や曜日でお客の入り具合が異なるのだろうと聞くために若くて可愛い女性従業員を探す。おっと、その条件は関係ないか。

それでも概ねその条件に合った女性従業員を見つける。そして彼女からの返答に驚く。

「この時季は比較的落ち着いていますね」と返ってきた。単純に空いていると言わない言葉の選び方が素晴らしい。これを社員教育で教えているとすれば凄い。

## ■松代を歩く

バスの出発は12時ということでそれまでの間ホテル周辺を散策する。

ホテルは長野市松代町にあり、松代と言えば上田にあった真田家が江戸時代初期に国替えによって移り住んだ所だ。そのために古い趣のある街並みには真田の六文銭のマークがいたるところにある。

街は古いまま残っている。

濠と門だけだが松代城跡があり、真田公園、真田邸、真田宝物館など真田関連施設、その他に旧家の屋敷、昔の藩校もある。藩校の直ぐ隣に現在の松代小学校があり校門には火の見やぐらがあるから珍しい。



幕末の思想家、佐久間象山の出身地ということで象山神社があり、境内には彼に影響を受けた弟子たち勝海舟、吉田松陰、坂本龍馬らの銅像が佐久間象山の銅像を囲んで立っている。

世間一般では佐久間象山（しょうざん）と呼んでいるが、地元では象山（ぞうざん）と呼ばれている。何しろこの辺りの地名が象山（ぞうざん）なのである。

松代は第二次世界大戦末期に造られた防空壕でも有名だ。敗戦濃厚な日本において首都東京への空襲も始まり安全な土地に首都機能を移転させるために掘られたもので、私は今回の旅行ではぜひ見たいと思っていた。

防空壕に行く途中、地元の人と会うと必ず先方から挨拶をしてくれる。その挨拶がとても自然な形なのが心地よい。その地元の人多くは高齢者だが小さい子供にも出会う。子供たちは大人が挨拶をしている姿を見て育っているので、当たり前のこととして受け継がれるのだろう。

防空壕にやって来る。象山という山を掘って造られたので「象山防空壕」と呼ばれている。

ここは当時の政府機関用に造られた防空壕で、私は皇居が移転するための防空壕だと思っていたが皇居の防空壕は同じ松代であるが別の場所にあることを初めて知る。

総延長5.8km、公開されているのは500mだがそれでも相当に長い。国内の他の防空壕に比べて国家中枢が入るだけあって規模が違う。千葉の館山の「赤山地下壕跡」に行ったことがあるが、壕の総延長は1.6kmだった。それでも旅行記ではとても大規模だと、私は感想を書いている。

## ■古い新しい小布施の街並み

バスは長野市と湯田中温泉の間にある小布施町に行く。

この町の名前は私も知っていたが、訪れるのは初めてである。古い街並みが残っている人口1万人程の町で、町をあげて古い街並みを活用しようという心意気を感じられる。

酒屋だったり米屋だったり古い建物は当然残っている。しかし現代の生活に必要なものもその中でさりげなく存在している。交番は交番らしからぬ建屋、信用金庫も古い商店のように暖簾が掛かっており、その前にある新聞配達所もとてもそうは見えない外観をしている。古い家のように見えるがお洒落なカフェもある。(写真の左が交番、右は信用金庫)



古いものをただ残すだけでなく未来に向けて洒落た雰囲気の新しい街をつくらうとしている。それは同様に古い街並みを残して街興しをしている他の街と大きく異なる点だろう。

おっとりキャラの添乗員が言うには今日は空いているが、夏に来ると人がいっぱいだという。すると隣にいたツアー客が夏は暑くてとても街を歩く気にならなかったと小声で言っている。

とにかく今日はラッキーらしい。真冬のこの時季なのにそんなに寒くない。

## ■渋温泉は面白い

次にバスは湯田中温泉へと向かう。

バスの中で添乗員が「予定では湯田中温泉散策となっていますが、湯田中は泊まってなんぼの温泉街で、泊まらないならば隣の渋温泉の方がはるかに面白いですよ」と言う。はなっからツアー企画を無視した添乗員の言葉には驚くが、この2日間で彼のキャラにも慣れてきており正直にしてくれるという彼の人間性を理解したからだろうか、お客全員がバスを降りて渋温泉へと向かう。

湯田中温泉と渋温泉との距離は1.5km程で、しばらく湯田中の温泉街を歩くと「これより渋温泉」という看板があり渋温泉に入ったことが分かる。この看板が無ければ湯田中温泉と渋温泉は一体化しており境界も分からない。

渋温泉には1番から9番まで共同浴場があり温泉巡りができるようになっている。最終の9番の近くには「金具屋旅館」という古い格式ある建物の温泉宿がある。映画「千と千尋の神隠し」のモデルになったという宿で、私たち一行以外の観光客も記念撮影をしている。



その映画をつくった宮崎駿はどこをモデルにしたと明言していないので、当地がそのモデルだと名乗る温泉地や温泉宿が多くある。私が行っただけでも群馬四万温泉の積善館、松山の道後温泉本館、台湾の九份（きゅうふん）、そして今回で4つ目になる。その他にも私は行っていないが岡山県の湯原温泉にはその名も「油屋」という元禄時代からやっている旅館もある。

渋温泉街の奥には温泉寺があり、そこから先は地獄谷温泉へと続く道になっている。この地域一帯が全て温泉になっていることが分かる。

#### ■お客たち

本日の夕食はホテル内のレストランではなく、肉屋の経営するレストランでしゃぶしゃぶ食べ放題の夕食になる。

今回のツアーで初めて他のツアー客と一緒に食事をする。あたりさわりのない会話から今回のツアーの感想などを聞く。のんびりしていて良い。添乗員のやや天然のキャラに癒される。何よりも安い。等々皆同じようなことを感じている。

このツアーに来ている人はみなバスツアーの上級者だ。

まず、このような安いツアーを知るべく常に情報をチェックしていることが必要だ。格安の場合には当然すぐに満席になるので躊躇している暇はない。つまり価格の相場を知っていることが重要で、そして素早く申し込む決断力がないといけない。だから上級者なのだろう。

その上級者たちが話をしている。ミステリーツアーで連れて行ってもらった岐阜県中津川にある「付知峡（つけちきょう）」が良かったと言う人がいる。上級者たちはもはや普通の旅行企画では満足せず、自分が知らない所、世の中にも知られていない所、知らないうちにサプライズで連れて行ってくれることを期待している。

バスはホテルに戻り、またしても私たちはホテル内にすぐに入らずに隣のスーパーマーケットに土産を買いに行く。本日は私たち夫婦の後をツアー客数人が付いてくる。

妻が土産代わりにパンにつけて食べるリンゴバターを買う。リンゴバターは長野発祥でリンゴをジャム状に煮立ててバターを練りこんだもので美味しい。リンゴの甘みとバターの香りが混ざり合った逸品である。地元の人が普段の食卓で食べるためにスーパーマーケットで売っているから当然のように安い。

妻が買うのを見ていた女性ツアー客が「それ美味しそうですね」と声を掛けてくる。妻は「ええ、これ長野特産の逸品ですよ」と答え、そこからまた旅行者間の情報交換が始まる。彼女は付知峡をお勧めしていた本人だ。妻と彼女は歩きながらホテルに帰るまであれやこれや話している。

宿に戻り温泉に入って部屋でゆっくりビールを飲んでみると、妻が私に「今度ミステリーツアーに行きたいね」とポツリという。

妻も上級者の仲間入りをしたようだ。



## ■善光寺

旅の最終日の観光のメインは善光寺である。

善光寺の駐車場に着くとやや若いお姉さんと年配のおじさんが迎えてくれる。添乗員の粋な計らいで観光協会の人を頼んでいたかと思ったがどうやら違うらしい。おっとりキャラの彼はそこまで考えないか。

善光寺山門の隣で写真撮影をするから並んで下さいという声が掛かる。人を集めて撮影の準備をしていたのは迎えてくれたあのお姉さんだ。彼女は写真屋で「買わなくても構わないので写真に入って下さい」と声を掛けている。

商売とはいえあまりに手際が良いので少し驚き、そしてやや引いてしまう。

おじさんの方は善光寺のボランティアガイドらしく、善光寺境内を案内してくれる。ハキハキと小気味良い口調で善光寺や仏教のことを話してくれる。資料館に案内されて釈迦の最後のことから三途の川の渡り方、仏教の作法、そして善光寺の由来も話してくれる。

善光寺の始まりについては私も飛鳥の旅行記で書いているが、簡単に書くと次のようになる。

飛鳥時代よりも前に百済の王から仏像が贈られ日本の仏教が始まる。ところがその仏像が蘇我氏と物部氏の争いの中で池に捨てられた。後に捨てられた仏像を「本田善光」という人が見つけて、自分の出身地に持ち帰り寺を建て安置した。その寺が善光寺だ。真言宗の空海や天台宗の最澄が登場する 200 年以上前なので宗派ができる以前なので、善光寺はどの宗派にも属していない。

そんな話を聞いていると最後に封筒が配られる。封筒に名前を書いてお金を入れてくれれば、後日拝んでくれるという。1 回分ならば 3000 円、1 年分なら 5000 円という。

今度私はどん引きをしてしまう。今までのありがたい言葉が消えていったような気持になる。

善光寺にまつわる言葉で「牛に引かれて善光寺参り」というのがある。この時に思い浮かんだのは「金に引かれて善光寺」という文言だ。

「牛に引かれて善光寺参り」とは人が仏教に開眼するエピソードである。

信州小諸に住んでいた性悪の老婆が布を洗濯して干していたら一頭の牛が現れて角で布を引っかけて走り出し、老婆はその牛を追いかけ善光寺まで来た。牛が入っていったお堂に老婆も入ると、光に照らされて牛のよだれが「牛とのみ思いすごすな仏の道に汝を導く己の心を」と読めた。

現代風には「ただの牛のしたことだと思ふな、こうしてお前を仏の道へと導いてくれた」という意味で、牛によって老婆が信仰心厚い人間に生まれ変わったというものだ。

私たちも、おっとりキャラの添乗員に連れられて善光寺にやって来た。何となくではあるが添乗員の顔が牛に見えてきた。しかし残念ながら開眼には至らなかった。

#### ■このツアーは儲かっているのか？

金に引かれついでに、この格安ツアーの費用について私の経験と勘で分析してみる。

今回のツアーは 2 泊 3 日で 15900 円、ふっこう割で政府が 1 泊当り 5000 円補助しているので真水の費用は 25900 円になる。それで果たしてこのツアーは儲かっているのか。

ホテル 1 泊朝食付きで 5000 円、夕食は各 1500 円とすると食事と宿泊費の合計は 13000 円、46 人分の総額は約 60 万円になる。団体に安くなるのは、料理の準備や仕入れで無駄がなく大量に定期的取引があることは経営においては計り知れないメリットになる。

交通費は大型バス横浜ー長野往復の運転手込のチャーター費用が 1 日 10 万円として 30 万円、高速道路や駐車場料金が 5 万円とすると合計 35 万円になる。こちらの方は規定のある料金なのであまり安くない。

収入は補助金を加えて 25900 円×46 人で約 118 万円なので、宿泊・食費 60 万円と交通費 35 万円を差し引くと、旅行社に残るのは約 23 万円になる。ここから添乗員費用や諸経費を差し引いても利益として 10 万円以上は残るだろう。

一般的にツアーなどの企画商品の利益率は 10%程度なので 118 万円の 10%とすると約 12 万円、上記の利益 10 万円以上にはほぼ合致する。ただし復興補助金が無ければ完全な赤字だ。

## ■ふっこう割

昨年秋の台風被害で各地の観光地で宿泊キャンセルが続いたことに対して、その支援のために政府が災害の度合いに応じて都道府県に補助金を支給して旅行業者や宿がその補助金の分を割引いて利用者に請求する仕組みになっている。だから、ふっこう割という表現を使っている。

今回は割引であるが、その時々で制度が異なり都道府県によっても若干差がある。

私がこのツアーを申し込んだ時には旅行会社のツアーだけしかふっこう割の適用がなかったが、この旅行記を書いている今、調べてみると個人で宿泊しても指定された宿泊施設ならば宿がその値段を差し引いてくれるようになっている。

補助金を使い切るまで割引も続くが、予算は限られているので使い切るにはさして時間がかからないだろう。

被災地には申し訳ないが、これを利用しないという手はない。いやむしろ被災地の復興のためにはこの制度は積極的に使った方がよい。

合言葉は「災害があったら補助金が出る」ということだ。

## 第三章 旅のまとめ

### ■旅の目的

2つのバスの旅をしてきたが、この2つを比べるつもりはない。そもそもホテルの送迎バスと添乗員付きの旅行社のツアーではバスの運行目的も異なる。

「旅の目的を明確にする」というのが私のポリシーだ。

1泊の旅は都内で一杯飲む代わりに行ったというもので手軽さを目的にしている。

2泊の旅は真ん中に1日あることでゆったり感が出てくる。限られた費用や時間の中でのんびりくつろぐことを目的にするならば2泊は最適だろう。

共通して言えることは、高速道路網の整備が進んだのでバスを上手に使いえば旅は手軽に行けて充実したものになる。

### ■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合いながらも最終的に温泉や宿を評価して5段階で数値化する。

ロイヤルホテル長野は泉質3、風呂4、料理4、コスパ4、サービス3、建物・部屋4.5、立地環境4、総合点（平均値）は3.79になった。コスパは宿の評価なのでふっこう割無しで評価した。

泉質はナトリウム塩化物泉で高張性中性泉、pH6.7、湧出温度は48℃になっている。

総合点は一般的には 5 段階の 75%にあたる 3.75 超えがまずまずという目安のラインで、今までの経験からすると総合点で 4 を超えるとかなり良い。

従来は秘湯度という評価項目があったが秘湯を特徴としていない宿もあるので、今年から立地環境ということで周辺の景色、温泉地の街並みや歴史・文化を評価し、秘湯度もここに含めた。

さらに評価の基準を分かり易く整理してみた。5 は驚きや感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、1 は失望や落胆とした。

ホテルニュー塩原については「塩原温泉の旅 2019」で評価記載済だが、泉質 3、風呂 5、料理 3.5、コスパ 4、サービス 4、建物・部屋 3.5、立地条件 3、総合点は 3.71 になった。立地条件は訪問当時秘湯度であったが、再評価しても 3 のままである。

泉質は塩化物泉、pH7.3、湧出温度 66℃という源泉である。

#### ■旅の記録①（塩原 1 泊 2 日のバス旅）

那須塩原温泉のホテルニュー塩原への 1 泊 2 日のバス旅は 2020 年 1 月 27 日（月）～28 日（火）に実施、行程を以下に示す。

- ・ 1 日目 8 時に池袋駅西口で直行送迎バスに乗車、12 時前に宿に到着  
持ち込んだ昼食を食べ、13 時 30 分から大衆演劇を見て、15 時に部屋に入る
- ・ 2 日目 10 時にチェックアウト、入浴及び昼食、13 時 40 分にバス出発、17 時に池袋駅到着

ホテルに支払った費用は 4 人で 35620 円、1 人当たり約 8900 円になった。

内訳は宿泊費 7355 円×4、入湯税 150 円×4、往復バス代 1500 円×4、割引－1000 円になる。割引は 500 円の会員割引券が 2 枚あったので合計金額から 1000 円の割引が適用された。

この他に自宅から池袋までの往復交通費と簡単な昼食、飲み物などの費用が発生し、私一人については約 2000 円になる。

#### ■旅の記録②（長野 2 泊 3 日のバス旅）

ふっこう割長野 3 日間のバス旅は 2020 年 2 月 2 日（日）～4 日（火）に実施し、行程を示す。

- ・ 1 日目 10 時横浜駅から旅行会社がチャーターしたバスに乗車、関越道から上信越道経由、2ヶ所の SA で休憩をとり 15 時ロイヤルホテル長野に到着  
18 時からホテル内で夕食（移動 248km）
- ・ 2 日目 朝食後 10 時から 2 時間ほど真田公園、防空壕、松代城址などを自主的に散策  
12 時ホテルをバスで出発、小布施、湯田中温泉（渋温泉）、フルーツランドに行く  
17 時ビアンデ信州中野でしゃぶしゃぶ食べ放題、19 時ホテル到着（移動 72km）
- ・ 3 日目 10 時ホテルをバスで出発、善光寺参拝、おぎのや長野店で昼食、須坂を散策  
中央高速、圏央道、東名高速経由休憩 2 回で横浜駅に 19 時到着（移動 319km）

旅行会社（阪急交通社）に支払った費用は 1 人当たり 15900 円、その中には 2 泊分の宿泊費、朝食 2 回、夕食 2 回、横浜駅からの全行程のバス代になる。

他に昼食や飲み物代、横浜駅までの交通費、土産代で 2 人合わせて約 5000 円かかった。